

2019年06月26日 10面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

安全大会／大林道路大阪支店／危険への感受性高める



大林道路大阪支店と同支店安全衛生協力は24日、大阪市淀川区のメルパーク大阪で2019年度安全大会を開いた＝写真。協力会社などから関係者約150人が参加し、「労働災害、公衆災害および連絡車事故の削減～まえを向いて～」のスローガンの下、安全で快適な職場づくりにまい進することを誓い合った。

冒頭、同支店安全衛生協会の榎並克彦会長が「きょうを機に原点に立ち返ってリスクアセスメントを行い、日々の安全を見つめ直そう」とあいさつした。

地方安全衛生総括責任者を務める小原信也常務執行役員支店長は「本年度から働き方改革関連法の施行が始まったが、今後活気ある関西が復活するためにも労働環境を改善し魅力ある業界となるよう努めていく。労働災害はほとんどが不安全行動やヒューマンエラーに起因している。個人の危険に対する感受性を高めながら、安全・安心な労働環境の実現に向かって皆で取り組もう」と呼び掛けた。

田中裕司天満労働基準監督署長と宮本裕大林組大阪本店安全部担当部長が来賓あいさつを述べた後、大林道路の福本勝司社長があいさつ。優秀な安全成績を収めた作業所や協力会社、個人が表彰を受け、最後に安全協会の松本哲夫副会長が安全宣言を読み上げた。

[閉じる](#)

記事ID：3201906261012

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます